

校 園 長 室 か ら



学校教育目標

共に学び共に伸びる子ども

- ・いのちを大切にできる子ども
- ・だれとでも仲良く協力し合う子ども
- ・意欲をもち学習する子ども
- ・ねばり強くはたらく子ども

令和 8 年 9 月 3 日 第 116 号

お茶

昨日の集会でお話したことを繰り返しますと、福井県を中心とした大雨やネパールでの土石流の状況が SNS を通じて、映像として瞬時に伝わってきます。便利になったような、そうでないような、そんなお話をしました。

電話についても。昔はダイヤル式の黒電話で、彼女の家に電話するにも、ジリジリとダイヤルが元の位置に戻る音にドキドキしながら、『お父さんだけは出ないで』と祈りを込めたものでしたが、今ではボタンひとつでピンポイントに話したい人に通じます。

あの時のドキドキを感じられない今の若い人たちをかわいそうに思ったりします。

今年の夏は、異常に暑くコンビニなどでたくさんお茶を買いました。今では緑茶は当たり前で、ウーロン茶、麦茶、ジャスミンティー、とうもろこし茶まであって、『お茶で悩むか』と自問したりします。

このお茶を買うということも昔はあり得ない話。お茶は自分の家でたいて冷やして水筒に入れるのが当たり前。

はじめてお茶を買った日のことを鮮明に思い出します。それは、新幹線が大阪から岡山までつながったときの新幹線の中でのこと。

半透明のプラスチックにふたがついていて、そのふたがコップになるというもの。小学生だった私は、お茶を買うというありえない現実と緑色したお茶がかすかな新幹線の揺れで動いていた光景は忘れられないものがあります。便利を追及して、お茶をたかなくてもいろんなお茶が飲める時代。

だけど、モノに対するドキドキが次第になくなってきているのではと、年寄りと思うのです。